

地域の子どもは地域で育てる ～サポーター養成講座終了式～



今年度、6回開講した「子どもの体験活動サポーター養成講座」は、延べ152人に参加いただき、規定の回数を研修された8人の方に修了証をお渡ししました。座学の研修だけではなく、救急救命の講習や野外で体を使って子どもと遊ぶメニュー体験、通学合宿のボランティアも行い、実際に子どもたちと関わりながら学んでいただきました。

来年度も講座を開講します。地域で子どもを育てていくため、多くの方の受講をお願いします。

(青少年課)

苦楽を共に60年 深溝還暦の祝い 1/20

深溝区の同級生8人全員が60歳を迎えたことを記念して、「還暦の祝い」を開きました。苦楽を共にした仲間と、これからもみんな元気で励ましあっていきたいです。

(投稿：新旭町深溝・林 吉輝さん)



未来に生きる人たちに伝えたい 3/1

下古賀をもう一度よく知り、未来に生きる人に伝えたいという思いから、下古賀里山の会が聞き取り調査を重ね、手作りで制作した「聞き取り集」や「絵屏風」の披露会を開きました。

手まりやこま回し、魚つかみなど、昔の名人が子どもたちに、その楽しさや技を伝えたり、昔懐かしい汁だんごやお菓子を通して、時代を超えた交流を行いました。

(投稿：下古賀里山の会)

まちまちな写真館

あんなできごと、こんな人。まちで起こったホットなニュースを紹介します。ニュースは皆さんから大募集!! あなたのとびつきりを紹介してください。

高島青年国内研修

2/9~11

市内の青年がスキーなどで交流を持ちながら、青年活動やまちづくりを話し合う青年国内研修を信州高遠で実施しました。

所属や国籍も超えて集まった33人が高島市で暮らすこと、働くことへの想いや悩みをぶつけながら意見を交換し、講師の大峰順二先生のアドバイスを受けながら、まちづくりについて考えを深めました。

(青少年課)



▲語り・沖田条里語り部会(サロン会有志)
画・岡島宇平氏 沖田区所蔵 サイズ・130cm×280cm

(注1) 地域に暮らす人々が、日々の生活体験の積み重ねを通じて育んでこられたふるさとへの思いやイメージをまとめて、絵画によって表現したもの。当時の風俗や街並みを正確に復元することを目的としたものではなく、人の印象に合わせて変形・誇張されている部分があります。

(注2) 湖国まるごとエコ・コミュニティ「づくり第3回たえあう交流会」おおきに大賞を受賞。

貴重な歴史や自然との関わりを子や孫に伝えたいとの思いから、安曇川町沖田の「ふるさと絵屏風(注1)」は、市の自治会ステップアップ事業で製作されました。沖田区は、八田川(絵図左面上下に流れる)の中流域、広い水田に囲まれた集落で、武奈ヶ岳・オグラス(蛇ヶ峰)・阿弥陀山・田中野の広大な夕焼けが美しい里です。絵図には多くの行列の姿が見られます。中央の道路には、左から田中祭りの渡り番の行列、兵隊送りの列、通学路の雪かきの列です。降雪期には、太鼓を合図に総出で雪かきをし、あけた後から子どもが1列に歩いて学校に通いました。子どもの列の背後にあるのは風雪から子どもを守る雪囲いで、吹雪のため道がわからないときなどはこれが目印になりました。中央下段には沖田祭りや田中祭りの後に行われた川堀りの列で、普請として行われましたが、お昼はみんなでかやくご飯を食べるあう日でもありました。右面に目を移すと田んぼの中に松明を持った虫送りの列があります。松明に蛾が集まり害虫駆除として行われたもので、集団で行うからこそ効果があったと思われる。中央には湿田を乾田にするため、村人のほか京都帝大(現京都大学)や滋賀師範学校(現滋賀大学教育学部等)の学生も手伝い行われた大工事の様子があります。これらの多くの人の列は、人と人とのつながりが非常に大事にされてきた集落の誇りが表されているといえます。

また、絵図には集落を囲うようにして行事や祭りの様子が、そして絵図右下には、今も全国でも貴重な状態で保存されている条里制の遺産が描かれています。沖田区では、この絵屏風の完成を期に、条里の里の案内板で坪名を表示されたほか、行事・祭事の再現などを通して、つながりを大切にしてきた地域の誇りを今に伝える活動が続けられ、県下でも特に熱心な取り組みとして評価(注2)されています。

シリーズ
わさと
環の郷
その二十七
えびょうぶ
絵屏風のふるさと巡り
ふるさと沖田
絵屏風